

平成22年度一般会計当初予算説明資料

6款 農林水産業費

5項 水産業費

6目 水産試験場費

水産試験場沖合漁業部(電話：0859-45-4500)

(単位：千円)

事業名	本年度	前年度	比較	財源内訳				備考
				国庫支出金	起債	その他	一般財源	
燃油高騰対策支援調査	46,136	10,294	35,842	20,191			25,945	知事査定中
トータルコスト	52,590千円（前年度 16,922千円）[正職員：0.8人 非常勤職員：0.1人]							
主な業務内容	調査船によるスルメイカ漁場調査、イカ釣り及びすくい網漁船によるLED水中灯実用化試験、潮流観測ブイによる沿岸潮流情報提供の試験運用							
工程表の政策目標(指標)	<ul style="list-style-type: none"> <li>試験操業や魚群探知機を用いてスルメイカや浮魚類の好漁場を探索する</li> <li>LED水中集魚灯を用いたイカ釣漁法の開発</li> </ul>							
事業内容の説明								
<p><b>1 事業の目的、概要</b></p> <p>燃油高騰対策の一環として、スルメイカ漁場調査、LED水中灯実用化試験、沿岸潮流情報発信の実用化を行う。</p> <p><b>2 主な事業内容</b></p> <p>(1) 春、秋スルメイカ漁場調査（4、11月） スルメイカ北上期（春期）及び南下期（秋期）における本県沖合のスルメイカの分布密度等を調査することで、いか釣り船の操業の効率化（燃油使用量の削減）を図る。</p> <p>(2) LED水中集魚灯実用化試験 小型イカ釣漁船（20トン未満）を採算性を向上させ、生鮮スルメイカの安定供給を図るため、LED水中灯による操業の省エネ化（燃油削減等）の可能性を検討する。 また、シラスを集魚するために強力な灯火を使用するすくい網についても、LED水中灯による操業を検討する。</p> <p>(3) 沿岸潮流情報提供実用化試験【新規】 漁業者は漁場に行くまで潮流がわからず、出漁しても潮流が速いと操業できず帰港するケースが多くある。 その不要な出漁を回避するため、沿岸部に小型ブイを2基設置し、潮流等の観測を行うとともに得られた情報を試験的に漁業者へ提供する。</p> <p><b>3 これまでの取組状況、改善点</b></p> <p>(1) 春、秋スルメイカ漁場調査（4、11月） 平成21年度において、スルメイカ漁場調査の結果を、直ちに漁業者に提供するとともに、調査結果をもとに漁場形成を予測し、漁業者の省エネ操業につなげた。 今後は、沿岸漁業者が必要としている沿岸海域を中心に調査点を設定する。</p> <p>(2) LED水中集魚灯実用化試験 平成21年度において、9月の調査でシロイカに対して効果が認められた。 今後は、すくい網漁業も対象にして調査を行う。</p> <p>(3) 沿岸潮流情報提供実用化試験 平成21年度において、「潮流観測ブイ視察」、「沖合予測モデルの沿岸モデルへの転用検証」を元に、「潮流情報提供方法検討委員会」を開催した。当委員会での検討結果に基づき、九州大学応用力学研究所等と協力し、小型で周年設置可能なブイの仕様を検討した。 今後は、ブイを実際に設置し、試験運用を行う。</p>								